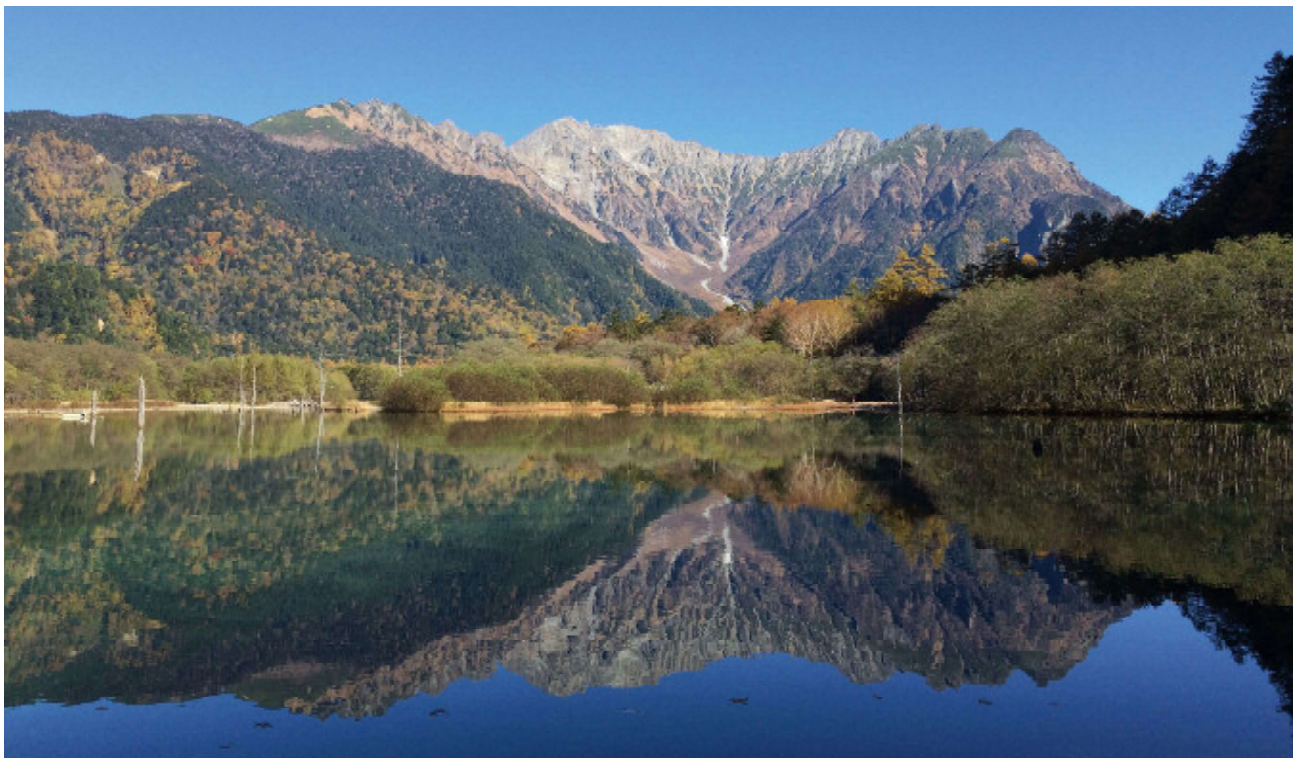


あいかんきょう



一般社団法人 愛知県環境測定分析協会

2017/10/20
会報 第133号



「鏡に映る色づいた山々」

撮影地：大正池

撮影日：平成26年10月19日

提供：犬飼 量子氏（株式会社環境公害センター）

コメント：上高地の大正池で撮影した写真です。紅葉の一番良い時期に行きました。快晴で早朝は風も無く、湖面が揺れなかったため、まさに鏡に映ったように撮影できました。

目次

災害緊急時の環境調査訓練	2
愛環協創立40周年記念式典	2
委員会報告、ブロック会議報告	4
環境月間講演会	6
初級統計研修会報告、中堅実務者研修会報告	6
私の趣味	7
事務局からのお知らせ	8

四季折々

四季がある日本に暮らす私たちは、季節の変化を感じ取るのが得意である。昔から俳句では夏を夕立や夕涼みで表現して暑さも優雅に楽しみ、また、挨拶では季節の言葉を使い、四季の移ろいを共有していた。

さて、そんな私たちは今の気候を不安に感じてはいないだろうか。今年の夏は、うだるような暑さの中、外に出ると汗が吹き出し、そしてカンカン照りかと思ったらいきなり空が暗くなって大雨に襲われる。昔は「青天の霹靂」ともいうべきこの現象を「夕立」と呼んでいたが、災害が目につくようになったこの頃は「ゲリラ豪雨」と呼ぶようになってきた。因みに気象庁の正式な名称は「局地的大

雨」である。地球温暖化などにより気温が上昇して起きるのであろうが、地球規模で気候が変わっていることを肌で感じてしまう。

最近の気候を一言で表現すると「異常気象」になるのだろうか。そもそも「異常気象」とは、「数年に1回程度の現象、あるいは人が一生の内まれにしか遭遇しない現象」と定義されている。もし今の異常気象を毎年のように経験するのであればそれは「普通の気象」になってしまう。私たちは次第に変わりゆく気候とも上手に付き合い、いつの日か優雅に表現することが出来るのだろうか。

文責：田村 励治

愛知県と大規模地震災害を想定した 放射線量調査訓練を実施

災害緊急時対応委員長 林 昌史

平成29年8月31日に愛知県環境部と(一社)愛知県環境測定分析協会(以下、愛環協)による災害時における環境調査訓練を実施いたしました。本訓練は全国でも初めてとなった昨年のアスベスト大気環境調査訓練に続いて2回目となりました。

本訓練は、平成23年3月に愛知県と締結した「災害時における化学物質等の調査に関する協定」に基づくものです。訓練の内容は、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大規模地震時に多くの建物が倒壊した事例から、愛知県内の放射性同位体元素等取扱事業所の倒壊などにより放射性物質が飛散・流出したことを想定し、愛知県庁西庁舎をはじめ県内12地点でシンチレーションサーベイメーターを用いた放射線量調査を行うものです。今回の訓練では災害協力認定会員48社のうち、シンチレーションサーベイメーターを所有しており、8月31日の訓練に対応可能であった10会員が参加しました。なお、訓練実施に先立ち、8月3日・4日の両日に訓練参加会員が愛環協事務所に測定器を持参して事前に器差確認を行いました。



訓練の様子(上野大気環境測定所)

訓練当日は、午前10時に愛知県環境部から愛環協事務局に調査要請の連絡が入り、直ちに災害緊急時対応委員である全ブロック長に要請内容が伝えられ、その後、訓練参加会員に調査協力が要請されました。

訓練参加会員は、測定地点に向き放射線量の測定を行い、測定結果を電子メールで愛知県環境部と愛環協事務局に送信しました。午後3時にはすべての結果が愛環協事務局に届き、午後4時には協会から愛知県環境部への最終報告を行い、当日の訓練は終了しました。

今回の訓練では、多くの災害協力認定会員が連絡・報告方法の確認を行うことができました。また、測定地点に足を運び放射線量測定を行ったことで実際の災害緊急時における調査のイメージもできました。さらに、過去の大きな災害では携帯電話やインターネット網が比較的早期に復旧し

た事例から、今回の調査訓練での連絡・通信手段には携帯電話及び電子メールを活用しました。



報道取材の様子(愛知県庁西庁舎)

訓練当日には、愛知県庁西庁舎地点での訓練の様子が新聞やテレビで報道され、県民の関心の高さや愛環協の社会的貢献度の高さとともに責任の大きさを実感しました。本訓練の計画と実施にあたりましては、愛知県環境部環境活動推進課主幹の平野淳一様をはじめ、同課の皆様の全面的なご協力をいただいたことに深く感謝を申し上げます。

災害緊急時対応委員会では、今後も協定に基づく訓練を実施し、災害協力会員の結束を固め、有事に備えたいと思います。会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

愛環協創立40周年記念式典

一般財団法人東海技術センター 丹川 幸久

平成29年7月21日に、愛環協創立40周年記念式典がプリンスガーデンホテルで開催されました。会員及び賛助会員等を含めて80名近い大勢の来場者のなか、河野会長の挨拶で開会されました。来賓として愛知県環境部長の菅沼綾子様、同環境活動推進課長の川村雄司様、同主幹の平野淳一様、そして産業労働部商業流通課主幹(計量センター)の伊藤和之様にお越しいただき、菅沼様から祝辞を頂戴しました。また、(一社)日本環境測定分析協会会長の松村徹様、前会長の田中正廣様、三重県環境測定分析業協議会会長の市田淳一様、(一社)静岡県計量協会環境計量証明部会部会長の目黒輝久様にも来賓としてお越しいただき、松村様と市田様から祝辞を頂戴し、盛大な祝賀会となりました。

その後、愛知県環境部及び産業労働部計量センターに、愛環協から感謝状が贈られました。愛環協を指導する立場の県に対し感謝状を贈ることに、菅沼様からも驚きと感謝の言葉があり、愛知県と愛環協との連携の歴史を感じる事が出来ました。また、愛環協功労者表彰として、

(株)ユニケミーの濱地光男様に特別功労者賞が、(株)東海分析化学研究所の大場和子様と元(一財)東海技術センターの阪野二郎様に功労者賞が贈られました。愛環協の発展と改革にご尽力された3名の方のご活躍は周知のとおりです。



来賓、表彰者の皆様

40周年記念式典では夢のある特別記念講演として、名古屋市科学館天文主幹の野田学様から、「プラネタリウムと星空」と題した講演がありました。野田様は博士号を持ち、2011年にリニューアルオープンとなったプラネタリウムの建設計画の中心的役割を果たされました。

講演冒頭は、リニューアル前との比較として、ドーム直径の差(直径20m→35m)、最新型投影機の導入(ZEISS MarkIV → ZEISS MarkIX)、環境への配慮から壁面緑化の実現など説明があり、特に、リニューアル後のドーム直径は、世界最大のプラネタリウムとしてギネスブックに認定されているとのことでした。また、日本一の入場者数を維持している理由についても、その魅力を通じて説明がありました。

「本物にこだわる」というテーマのもと、プラネタリウムが建設されていることが、最大の魅力のようです。例えば、水平ドームにこだわりを持ち、「太陽の沈む時間を示す」、「季節により高さを変える」、「現実の星空と動きを合わせる」など、本物に限りなく近い星空を実現しているとのことでした。また、屋外展示広場に純国産大型ロケットH-IIBの展示がありますが、このロケットの大部分が、実物と同じ構造の試験機であり、単なる模型ではなく、実物のものを見て感じてほしいという思いがあるとのことでした。



特別記念講演 野田 学様

講演の後半では、夏の大三角形、恒星と惑星の見分け方、日食と月食、名月と満月などについてもお話をいただき、とても興味深いものでした。星空を彩る1つとして、宇宙ステーションの見えるタイミングが直近にあるとの情報などもご提供いただき、名古屋市科学館HPでは、こういったタイムリーな情報を発信しているとのことでした。

「本物にこだわる」という思いは、「正確なデータ、精度にこだわる」という我々の業界にも通じると感じるものでした。と同時に、星空のロマンあるお話は、純粹にワクワクし心に響くものでした。私達の地球もまた星の1つであり、測定分析を通じて環境の保全に寄与している愛環協の40周年記念式典に相応しい特別講演でした。

余談ですが、講演後日、子供と一緒に星空を見上げ、夏の大三角形を見つけた時は、子供以上に私自身がはしゃいでしまいました。



特別ミニコンサート

続いて、来賓、受賞者の皆様と記念撮影を終えた後に、記念パーティーが催されました。記念事業実行委員会副実行委員長の角信彦氏より開会挨拶があり、静岡県計量協会部会長の目黒様から来賓の挨拶を、そして前日環協会長の田中様からの乾杯の挨拶があり、華々しく記念パーティーがスタートしました。

途中、パーティーに駆けつけていただいた賛助会員の紹介があった後、会員である(株)日本環境アセスの古田律子様のご歌と、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)の志賀政雄様の三線、そしてサポートいただいた勝美香様のキーボードによる「特別ミニコンサート」のサプライズがありました。途中の楽曲「上を向いて歩こう」では参加者全員が手を組み輪になって合唱するなど非常に盛り上がりました。

パーティーの最後には、濱地顧問から「愛環協40年を振り返って」と題したミニ講演があり、愛環協の先進性とこれからの発展の可能性を伺うことが出来ました。

記念式典は、実行委員長で愛環協副会長でもある大野哲氏の閉会挨拶で幕を閉じました。愛環協の一体感を感じると同時に、50周年に向けた活動に少しでも貢献できればと思いました。

委員会活動報告

総務委員会

総務委員会では、平成30年度の「環境に関する喚起標語」作品を募集する予定です。皆様の素晴らしい作品をお待ちしております。また今年度末には景況調査の実施を予定しております。皆様のご協力をお願いいたします。

7月21日に開催いたしました「愛環協創立40周年記念式典」におきましては、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。紙面にて恐縮ですが感謝を申し上げます。

総務委員長 大野 哲

企画・対外交流委員会

平成29年度第1回となる企画・対外交流委員会を7月5日に開催いたしました。昨年度までの企画委員会及び対外交流委員会の主な活動や年間スケジュール等を確認し、新委員会としての活動内容について意見交換を行いました。また、7月21日に行われました創立40周年記念事業の副実行委員長として運営に参画しました。

平成29年度の施設見学会はBCPをテーマに「名古屋大学・減災館」を選定しました。9月4日に参加募集の案内を行い、9月22日開催の第2回企画・対外交流委員会に於いて参加人数と詳細な行程等の最終確認をして、理事会に報告いたしました。

見学会の様様につきましては次回本誌にてご報告いたします。

企画・対外交流委員長 角 信彦

教育研修委員会

7月14日に12名が参加し初級統計研修会を開催しました。(株)東海分析化学研究所夏目訓良氏、(一社)愛知県薬剤師会田村励治氏、(株)ユニケミー服部寛和の講師3名からパソコンを用いた演習を交え統計的方法を学びました。

9月14、15日に14名の参加者を得て中堅実務者研修会を開催し、精度管理及び不確かさを含む研修を行いました。上記の夏目氏と田村氏のほか、(一財)東海技術センター土屋忍氏及び菊谷彰氏、愛知県立岡崎工業高等学校井上満氏、(株)環境科学研究所牧原大氏の合計6人の方が講師です。精度管理について熱心に学ぶとともに懇親会でも参加者同士の親睦を図りました。

11月10日に「環境計量士等研修会」を予定しています。多数のご参加をお願いいたします。

教育研修委員長 服部 寛和

広報委員会

平成29年度第2回の広報委員会を8月24日に開催し、会報誌「あいかんきょう」(133号)の編集内容を決定しました。また、1月発行予定の134号の編集方針についても検討し、併せて今後の広報誌としてのあるべき姿を熱心に議論しました。

今号には、恒例の報告記事以外に、TOP記事として「愛知県と大規模地震災害を想定した放射線量調査訓練」(林昌史 災害緊急時対応委員長)を、また、久し振りに「私の趣味」(濱地清市 理事)を掲載することとしました。

今後も、会員皆様に愛され、親しみを持っていただける会報誌の作成を目指して参ります。

広報委員長 林 辰哉

技術委員会

9月25日に第2回全体会議を開催しましたので報告いたします。

<水質・土壌ワーキング>

模擬排水中の亜鉛及び全クロムを対象とした第1回共同実験の検討会を12月4日14時より日本特殊陶業市民会館にて行います。当日は共同実験結果説明とグループに分かれてのディスカッションを予定しています。

<大気・臭気ワーキンググループ>

粒子状水銀濃度を対象とした第2回共同実験の報告を平成30年1月12日13時より日本特殊陶業市民会館にて行います。結果報告と意見交換会を予定しています。

<騒音・振動ワーキンググループ>

平成29年度の勉強会を平成30年2月15日13時より日本特殊陶業市民会館にて行います。講義「振動の基礎について」と、騒音・振動の調査、解析作業に関してグループディスカッションを予定しています。年内にはご案内致しますので、ぜひご参加下さい。

共同実験報告会と勉強会では、前年度のアンケート結果から好評でありましたグループディスカッションを今年も行います。技術者同士、ベテラン、初心者問わず話し合える貴重な場として、多くの会員に参加いただきたいと思っております。

技術委員長 波多野 群樹

ホームページ委員会

平成29年度第2回ホームページ委員会を6月26日に第3回を8月29日に開催いたしました。ホームページの更新作業を8月4日に実施しました。第2回の委員会では資料保管庫について検討を行い、ページへの掲載とは別に協会として残すべき文書等の明確化(管理規定)が必要等の意見があり一旦保留となりました。また

(株)エステムの山田早苗氏が新委員として参加されました。第3回の委員会では前回の委員会で保留となった資料保管庫の件とホームページの掲載内容の見直しについて検討しました。いずれも委員会での判断事項ではないので会長の意見を伺う事になりました。次回の委員会は10月24日に決まりました。

ホームページ委員長 金田 哲夫

災害緊急時対応委員会

平成29年度第2回、第3回災害緊急時対応委員会を6月29日、8月9日に開催しました。いずれの回も、本年8月31日に愛知県との合同で実施しました「大規模地震を想定した放射線量調査の訓練」に関しての参加会員の募集と訓練の実施要領や役割などの打合せを行いました。

この訓練には災害協力認定会員の中から10会員が参加しました。訓練当日は愛知県からの調査要請に始まり、各会員が測定地点へ出向き、実際に測定と報告を行うことで一連の流れを確認できました。また、愛知県環境部環境活動推進課の多大なご協力のほか、訓練参加会員をはじめとする会員皆様のご尽力により、充実した訓練を無事に終えることができました。

今後はいつ起こるかかわからない大規模災害時に少しでも迅速に確実に対応できるよう、今回の訓練を通じて得られた課題の確認と対策に取り組む予定です。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

ブロック会議報告

第1ブロック

平成29年度第1回ブロック会議を9月13日に(株)ユニケミーの会議室で開催しました。

会議には、河野会長、杉本事務局長及び会員11社中8社10名が出席しました。

理事会報告資料を用いて、愛環協の事業経過、各委員会活動、ブロック会議、個別議題についてブロック長から報告の上、会長から補足のご説明をいただきました。

7月の創立40周年記念事業や8月末の愛知県との合同調査訓練等の最新の情報についても紹介し、協会の活動状況を会員間で共有することができました。

会議後に開いた恒例の懇親会では、美味しい和食と酒で会話が弾み、様々な話題で楽しいひと時を過ごしました。

第1ブロック長 氏原 和彦

第2ブロック

平成29年度第1回会議を9月29日の15時30分から愛環協事務局で、全20社中15社の参加で開催しました。

会議では、はじめに参加者の自己紹介と近況報告を行い、その後、平成29・30年度理事会の構成員、平成29年度上半期の理事会での議事、委員会の活動結果及び予定について報告を行いました。また、河野会長からは最新の内外情勢、今後の日環協や愛環協の活動、7月21日に開催した愛環協創立40周年記念式典の開催結果などの話をいただきました。

ブロック会議後には懇親会を開催し、仕事から趣味のことなど多岐にわたる話題を肴に会員同士の親睦を深めました。

第2ブロック長 林 昌史

第3・4ブロック

平成29年度第1回ブロック会議を9月20日に愛環協事務局で開催しました。今回は第3ブロック(10社中4社4名)と第4ブロック(13社中7社8名)の合同で開催し、河野会長と杉本事務局長にも参加いただきました。

最初に参加者全員から自己紹介・会社紹介・近況報告による情報交換を行いました。次いで林辰哉第3ブロック長が3月以降に開催した理事会・委員会報告を行いました。さらに河野会長から理事会報告の補足説明と10月26日に予定されている名古屋大学・減災館への施設見学会への参加と日環協・環境セミナー全国大会、経営者セミナーの案内がありました。

最後に愛環協が主催する技術者のレベルアップを目的とした各種技術研修会や分析精度管理のための共同実験への積極的な参加・活用をお願いして閉会としました。

会議終了後は河野会長、杉本事務局長を含め12名で懇親会を行い、交流を深めました。

第4ブロック長 阿部 裕士

第5ブロック

平成29年度第1回ブロック会議を9月27日に豊橋商工会議所会議室にて開催いたしました。ブロック会員17社中13社の出席で、河野会長と杉本事務局長にご出席いただき総勢16名での会議となりました。会議では、3月以降の理事会及び今年度の各委員会活動について報告させていただき、意見及び情報交換を行いました。

会議終了後は、豊橋市内の懇親会場に移動し、参加者との活発な意見交流を行うことができました。

第5ブロック長 大野 哲

平成29年度 環境月間講演会報告

平成29年6月16日に、日本特殊陶業市民会館にて愛環協と(一社)日本環境測定分析協会中部支部共催の「環境月間講演会」が開催されました。愛環協河野会長の挨拶に続き、今年度は2講演が行われました。



河野会長



横井歩様

はじめに愛知県環境部大気環境課地球温暖化対策室室長補佐・横井歩様による「愛知県の地球温暖化対策について」のお話がありました。

パリ協定から世界と日本の温室効果ガス排出量と目標、温暖化による日本の現状と取り組み、また、愛知県の産業・運輸・業務・家庭の各部門別排出量の推移、施策などを紹介され、改めて温暖化対策は全員参加が必要なのだと気付かされました。



守富寛様



講演会の様子

次に岐阜大学大学院工学研究科環境エネルギーシステム専攻シニア教授・守富寛様による「炭素繊維のリサイクル技術」の講演がありました。

軽量、高強度、高剛性の利点から、現在様々な分野で使用されている炭素繊維を使用したCFRP(Carbon Fiber Reinforced Plastics)ですが、生産コストと端材廃棄物が問題になっています。本講演では炭素繊維の回収技術、リサイクル繊維の特徴と利活用法、繊維吸引の健康影響など、かなり深い内容のお話をいただきました。

炭素繊維は今後ますます需要増加が見込まれる素材で、そのリサイクル技術の確立は非常に重要な課題であり、実用も間近だと感じました。

文責:近藤 賢

初級統計研修会報告

一般財団法人東海技術センター 荻谷 あずみ

7月14日に開催されました「初級統計研修会」へ参加させていただきました。普段は分析業務に携わっており、日常より濃度計算をしております。

しかし、大学時代に学んだ統計学が頭の中で業務に結び付いていない状態でした。

研修会では、「基本統計量」、「検定」、「外れ値の検定」の3つの講義を受講し、それぞれパソコンによる統計処理の実習を行いました。

「基本統計量」では、統計の基礎となる用語、数式、定義の再確認をすることができ、Excel分析ツールを使用した便利な関数計算を学ぶことができました。

「検定」では、複数の検定方法を教えていただき、様々な状況下での使用パターンを学びました。説明後にはテストもあり自分の理解の未熟さを痛感しましたが、後日丁寧に添削して下さり、とても勉強になりました。

「外れ値の検定」では、精度管理評価でよく使用されるZスコアやGrubbs検定について説明を受けました。普段、Zスコアの数値ばかりに目がいておりましたが、Zスコアの意味や評価の方法を学ぶことができました。

今回の研修会に参加して、測定分析の数値の信頼性を確保するためにも、統計処理の理解は重要だと考える良い機会になりました。検定に関してはまだ完全に理解できていない部分も多く、今後の課題として勉強を続けていきたいです。普段の業務の中にも統計学が用いられていることを念頭に置き、客観的な評価を行えるように活かしていきたいと感じました。

中堅実務者研修会報告

一般社団法人愛知県薬剤師会 田中 舞子

9月14日午後～15日に開催された中堅実務者研修会を受講させていただきました。環境分析業務に携わるに当たり、例えばサンプリングの容器や採水方法の決まりや、関係する法律に関する知識、機器管理のための点検事項、あるいは測定における不確かさなど、知っておかなくてはならないことはたくさんあります。

しかしながら、実務に追われて、勉強不足になりがちであるため、それらを体系的に学ぶ貴重な機会となりました。

初日は「環境分析及びサンプリングにおける精度管

理」について講義があり、採水容器の洗浄方法や、現場での採水方法や心構えなどについて説明していただきました。

サンプリングに大きなミスがあれば、その後どれだけ正確な分析をしても、信頼できない分析結果となってしまうことから、その重要性を再認識しました。また「機器分析の精度管理」では、各分析機器に応じた分析時の留意点や、点検内容などについて、経験を踏まえた詳しいお話を伺うことができました。

2日目の「環境法令について」では、法体系や法令用語と法改正の際の情報収集の仕方について教えていただき、大変参考になりました。また「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」では、複数回の測定結果からばらつきを解析したり、測定方法の併行精度や室内精度を算出したりして、測定方法の妥当性を評価する手法を学びました。

「相関分析・回帰分析」では、得られたデータについて、相関関係を予想し、仮説を立て検定を行う方法を学びました。これらの統計を用いた講義では、各自持ち込んだPCを使って、エクセルのアドイン計算ツールを利用して実際に統計の計算や検定を行いました。

最後の「不確かさの検出」では、測定の不確かさの算出方法を、要素の抽出から計算、評価まで、具体的に教えていただきました。

最近では、測定の不確かさを数値化したり、妥当性を評価したりして、測定ひいては試験所の正確さや信頼性を示すことが、今まで以上に求められるようになってきました。

「中堅」と呼ばれる立場になると、自らが測定結果を出すだけでなく、更に試験所から出る測定結果を管理したり、あるいは、技術の立場から顧客に説明したりする場面も増えてきます。その際に、今回学んだ内容は大いに役立つと思います。

懇親会で、講師や受講生の方々と知り合い、意見交換することができたのも、大変刺激になりました。今後、知識や人脈を広げ、職場で中核を担う存在になれるよう、努力していかなければいけないと感じました。



「私の趣味」

株式会社ユニケミー 濱地 清市

現在は趣味と言える程ではありませんが、私の半生でバドミントンは欠かせない存在です。

1994年愛知県で開催された第49回国民体育大会（わかしゃち国体）で私の出身地の大府市はバドミントンの競技会場でした。この国体の競技種目が決まった当時、大府市は将来の開催に向け地元の選手を育成し国体に出場させようと、小学4年生を対象に初心者向けのバドミントン教室を開きました。その頃、私は子供の遊びとして屋外で“羽根つき”する程度でしたが、友人を打ち負かしたいと軽い気持ちでこの教室に参加しました。今から30年前の小学4年生の時です。

当時の日本でバドミントンは、「羽根つき」や「女性のスポーツ」というイメージが強くマイナーで、男子の競技と認識されない時代でした。「部活は？」と質問されると「バドミントン部です。」との答えが恥ずかしいと感じた程度です。

しかし1992年バルセロナ五輪よりバドミントンが正式種目に採用されると、日本でも少しずつ認知度が向上しました。近年日本の女子選手は活躍が目覚しく、2008年北京五輪のダブルスでベスト8となり“オグシオ”で人気だった小椋久美子と潮田玲子ペア、同五輪でベスト4の“スエマエ”こと末綱聡子・前田美順ペア、続く2012年のロンドン五輪で“フジカキ”藤井瑞希・垣岩令佳ペアが銀メダルに、そして記憶に新しい昨年（2016年）のリオデジャネイロ五輪で“タカマツ”こと高橋礼華と松友美佐紀ペアが悲願の金メダルを獲得しました。

また、シングルスもリオ五輪で銅メダルを獲得した奥原希望が今年8月の世界選手権で金メダルを獲得するなど枚挙に暇がありません。

このように、世界で日本人選手の活躍も一助となり、国内でバドミントンはスポーツ人口が増加傾向にあります。現在では900万人以上とも言われ、野球やサッカーより多いというデータもあります。

ところで、バドミントンを「バドミントン」と2文字目の“ド”に濁点が付かないと思っている方も多いようですが、英語でBadmintonと表記しますので「バドミントン」が正しい日本語です。

バドミントンは球技の一種で、半球状のコルクに水鳥等の羽を接着剤で固定した重量約5gのシャトルを使用します。

世界最速初速は493km/hで、世界最速のスポーツとしてギネス世界記録に認定されています。一方、シャトルの重量が他の球技に比べ非常に軽いため急激に速度

が低下し、初速と終速の激しい差も特徴の一つです。このような過酷なラリーが続くため、シャトルがすぐに痛み、交換を繰り返して1試合で1ダース(12個)以上のシャトルを使用する場合があります。

また、シャトルが非常に軽いので風の影響を受けやすい特徴があります。風を防ぐため体育館の窓を締め切らなければならない、夏場はサウナ風呂のような環境で競技するので熱中症との闘いです。

近年、多くの体育館が空調を完備していますが、館内の寒暖差や空調の風で僅かな対流からしばしば上空で微風が吹き、ゴルフのように風の考慮も必要な技術の一つとなっています。



シャトル

さて、私は小学4年生からラケットを握りはじめましたが、中学に入学した時、音楽が好きで吹奏楽部への入部を考えていました。しかし、あまり運動が得意でなかった私に母が「男の子なのだからせめて中学生の3年間は運動部に入って欲しい」との助言で、まだ珍しかった男子バドミントン部に入部しました。

私の出身中学のバドミントン部は当時創部3年目ながら、毎年愛知県で優勝を争う強豪校でした。しかし私は団体戦のレギュラーになれず悔しい思いを募らせた3年間でした。その反動からより強くなりたいと、高校や大学



第31回全日本シニアバドミントン選手権大会会場

では学業よりもバドミントンが中心の生活だったように思います。さらに学生だけでは飽き足らず、出身大学のOBクラブに所属し現在も愛知県社会人クラブチームのリーグ戦に年2回出場しています。

最近では仕事と家庭が生活の中心で、ほとんど練習しないまま試合に参加しているため、練習不足と体力の低下で出場機会が少なくなっています。

しかし、2014年愛知県で開催された30歳以上の選手が出場する全日本シニアバドミントン選手権大会で審判を務めた時、かつてのライバル選手がこの大会に出場しており大きな刺激を受けました。

30年間のバドミントン人生で県大会優勝の経験こそあるものの、まだ全国大会出場を果たしていません。これを機に「全国大会に出場したい」という秘めた思いが再燃しています。

バドミントンが縁で結婚した家内は、子育てが少し落ち着き、今年から練習を再開しました。また子供たちも成長しラケットを握れる年齢になりました。全日本シニアへの出場を目指し家族ともに近々本格的に練習を再開する予定です。

2020年の東京五輪で日本人男子初の五輪のメダル獲得、そして金メダルの獲得を楽しみにしながら私も練習に励みます。

事務局からのお知らせ

- 【環境計量士等研修会】
平成29年11月10日(金) 日本特殊陶業市民会館
- 【第1回共同実験結果検討会】
平成29年12月 4日(月) 日本特殊陶業市民会館
- 【第2回共同実験結果検討会】
平成30年 1月12日(金) 日本特殊陶業市民会館
- 【SOP研修会】
平成30年 1月24日(水) 日本特殊陶業市民会館
- 【騒音振動勉強会】
平成30年 2月15日(木) 日本特殊陶業市民会館

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会
〒460-0022 会長 河野 達郎
名古屋市中区金山1-2-4 アイディエリア405号
TEL-FAX : 052-321-3803
E-mail : aikankyo@nifty.com

編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 広報委員会
委員長：林 辰哉
副委員長：豊田 豪
委員：市川ゆかり、糸魚川 広、大場 恵史、
近藤 賢、田村 励治

編集後記(近藤 賢)

今号は執筆期間の短い原稿が多く、ご担当の方々は大変だったと思いますが、お陰様で何とかまとめることができました。ありがとうございました。